

令和元年6月24日現在

機関番号：23102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02688

研究課題名(和文) 言語地図の比較・総合による言語地理学研究の推進

研究課題名(英文) Promotion of Geolinguistic Studies by Comparison and Integration of Linguistic Maps

研究代表者

福島 秩子 (FUKUSHIMA, Chitsuko)

新潟県立大学・その他・副理事長

研究者番号：80189935

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：多数の言語地図があるとき、類似の分布パターンを示す言語地図を総合することで、その地域のことばの歴史が見えてくる。また、異なる時期に調査された言語地図や異なる世代を対象とした言語地図を比較することで、言語変化が明らかになる。この言語地図の総合と比較の方法を組み合わせた実践として、新潟方言における準体助詞(「大きいの」、「行くのたろう」などにおける「の」)の分布と変化を明らかにするため、多様なデータを様々な作図法で地図化した。また、奄美徳之島方言の動詞の活用体系の変化が地理的分布としてあらわれる事例として連用形と禁止形の地図を作成し発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究期間に言語地理学の理論と方法について英語で発表したり講義したりする機会があった。日本語に限らず、様々な言語の研究で言語地図を活用することの意義を国内外の若手研究者に知ってもらうことができた。今後は、言語地理学調査資料に加えて方言辞書の活用も視野に、様々な言語データを地図化し、方言の分布と変化の状況を明らかにするため言語地理学を推進していきたい。

研究成果の概要(英文)：When we have a number of linguistic maps, the history of dialects in the area will be revealed by integrating linguistic maps which show similar distribution patterns. Also, language changes will be analyzed by comparing linguistic maps surveyed at different times or for different generations. As a study which combines the methods of integration and comparison, quasi-nominal particles in Niigata dialects have been studied to analyze the variation and change by mapping various sets of data in different ways. In addition, geolinguistic data of Tokunoshima dialects have been mapped to show the change in verbal conjugation system reflected in geographical distributions.

研究分野：言語学

キーワード：言語地図の総合 言語地図の比較 言語変化 準体助詞 動詞の活用体系 方言辞書の活用

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、1983年に言語地図作成システム SEAL を開発し「パソコンによる言語地理学」を提唱して以来、「言語地図を使った方言研究」を実践してきた。日本語方言の分析のみならずイングランド方言データの計量方言学的分析も行った。また、多言語対応の英語版 SEAL を公開し、国内外の方言研究者に利用された。2007年の国立国語研究所国際シンポジウム「世界の言語地理学」において研究代表者は一日目のコメンテーターを務め、世界の言語地図作成の現状と課題をまとめなおす中で、コンピュータを使った言語地理学の位置づけと意義を再確認した。その後、異なる言語地図を比較・総合する手法や言語地図をどう読むかなどについて研究発表・論文発表し、言語地図の多角的利用の可能性を追求してきた。

言語地理学におけるコンピュータ利用のメリットには、電子化データの再利用・共同利用の可能性、多数の言語地図データの総合などがあるが、ICTの発達に加え、3度目の全国方言調査 (FPJD) が実施され、この研究法の効果と意義がますます大きくなってきている。本研究では、調査地域が重なり調査時期の異なる言語地図など、複数の言語地図の比較・総合することにより、言語変化の軌跡を跡付け、変化の進行状況を捉えることを目的として、研究を推進する。

2. 研究の目的

研究代表者は国立国語研究所の大西拓一郎教授の率いる国立国語研究所共同研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査 (FPJD)」に参加し、新潟県の調査責任者を務めた。SEAL を用いて異なる言語地図を比較・総合してきた経験と視点を活かし、先行する全国方言調査 LAJ、GAJ と新しい全国方言調査 FPJD、さらに短大生の方言調査 (CS) など、調査時期と調査対象年代の異なる調査データを地図化し比較・総合することで、言語の多様性と変化について分析追求する。全国の方言分布を踏まえつつ、研究の対象は主として新潟方言や奄美徳之島方言とする。

3. 研究の方法

一枚の言語地図からことばの歴史を再構することも可能だが、多数の言語地図があるとき、類似の分布パターンを示す言語地図を総合することで、その地域のことばの歴史が見えてくる。また、異なる時期に調査された言語地図や異なる世代を対象とした言語地図を比較することで、言語変化が明らかになる。

多様な調査データを分析し、異なる言語調査データの比較・総合を実践する。目的に応じて、SEAL と GIS ソフトを使い分ける。新潟方言や徳之島方言などのデータについて、複数の言語調査資料の関連する言語項目を比較・総合することで、地域における方言の地理的分布から経年変化を明らかにする。新潟県の若年層データとして、学生アンケートを実施する。また、必要に応じて実地調査を実施する。

SEAL のウェブでの整備公開を継続する。また、言語地理学関係資料を購入し、研究に努めるとともに、研究成果を論文発表あるいは国際会議で研究発表する。

4. 研究成果

この言語地図の総合と比較の方法を組み合わせた実践として、新潟方言における準体助詞 (「大きいの」、「行くのだろう」などにおける「の」にあたる) の分布と変化がある。様々なデータを様々な作図法によって地図化してきたが、本研究期間にその決定版となる論文を発表した (福嶋秩子 2017「方言分布の総合と比較から見る方言の地域差と変化」『方言の研究3』)。図1-3は、ガン・ガ・ノの系統別に FPJD の語形を分類し地点ごとの出現%をグラフで表したものである。ガンからアンが派生し、さらに前接語末が[u]のときはワンあるいは-anへ、[e]や[i]のときはヤンへと変化したのではないかと考えられる。

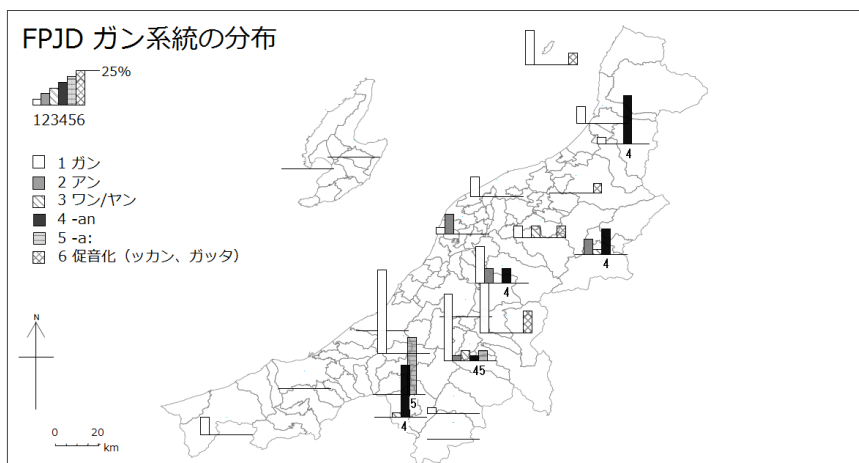


図1 FPJD ガン系統の分布



図2 FPJD ガ系統の分布

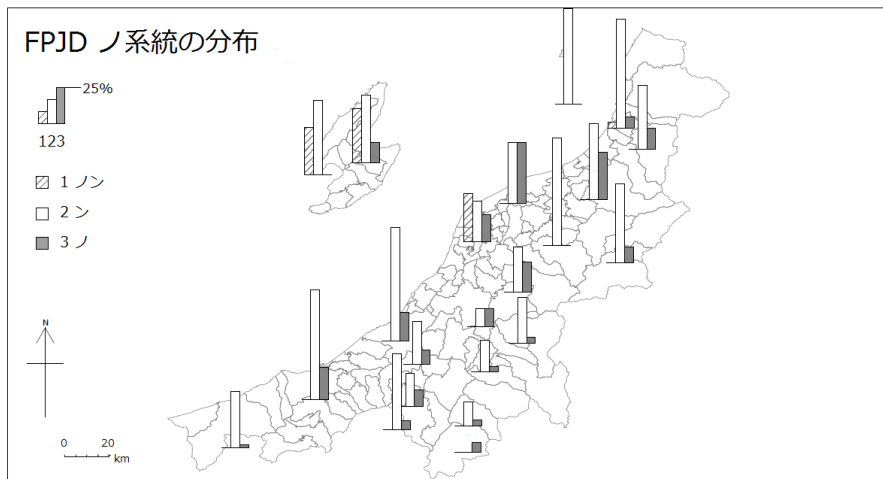


図3 FPJD ノ系統の分布

また、奄美徳之島方言の動詞の活用体系の分析を行う中で、島内で体系変化が起きていることをつとに指摘しているが、その変化が地理的分布としてあらわれる事例として 1977 年岡村調査のデータから連用形と禁止形の地図（図4 - 6）を作成し発表した。母音語幹から r 語幹への変化が起きている（Chitsuko Fukushima 2019 Reconsidering the Change of Adjectives in Niigata Dialects: The Prohibitive Form as Another Proof. *Acta Linguistica Lithuania* 79）。

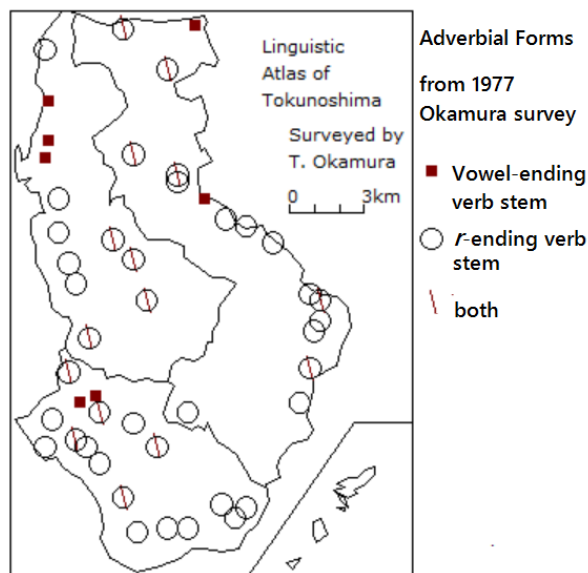
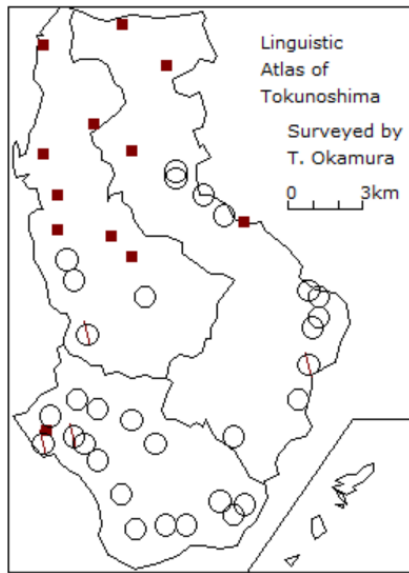
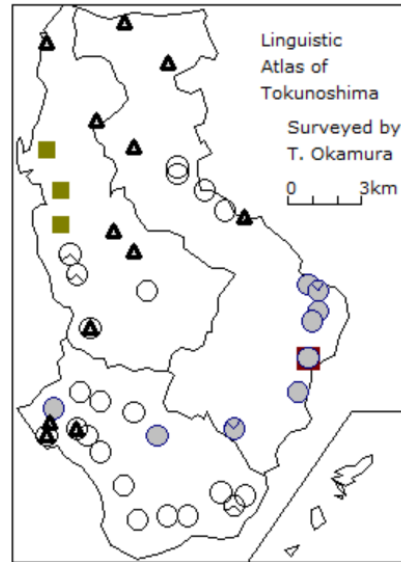


図4 動詞連用形総合（岡村調査）



Prohibitive Forms
from 1977
Okamura survey

- Vowel-ending verb stem
- /-ending verb stem
- ∩ both



Prohibitive Forms 2
from 1977
Okamura survey

Vowel ending verb stem

- V stem+na
- V stem+juNna
- ▲ V stem+Nna

/-ending verb stem

- -rina
- -riNna
- -runa
- ∩ -ruNna

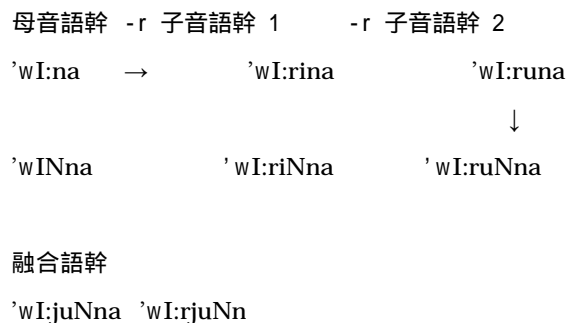
図5 動詞禁止形総合（岡村調査）

図6 動詞禁止形詳細（岡村調査）

表1 現在使われている禁止形（福嶋調査）

| | 浅間 | 犬田布 |
|-----------|-------------------|------------------------|
| 母音語幹 | *'wI:na 'wINna | |
| -r 子音語幹 1 | | 'wI:rina 'wI:riNna |
| -r 子音語幹 2 | | *'wI:runa 'wI:ruNna |
| 融合語幹 | 'wI:juNna | 'wI:rjuNna |

図5・6の地理的分布と表1の情報などから、禁止形については以下のような変化が起こったと推定される。



本研究期間に言語地理学の理論と方法について国内外の若手研究者に向けて英語で発表したり講義したりする機会があった。日本語に限らず、様々な言語の研究で言語地図を活用していくことの意義を若手の研究者に知ってもらいたい機会になったと考えている。地図化する資料は言語地理学調査によるものとは限らない。方言辞書の活用も視野に入れ、言語地理学の方法により方言分布と変化の諸相について追及していきたい。

〔雑誌論文〕(計 8 件)

Chitsuko Fukushima. 2019. Variation and Change of Adjectives in Niigata Dialects. *Papers from the Fourth International Conference on Asian Geolinguistics*. 79-90. オープンアクセス

Chitsuko Fukushima. 2019. Reconsidering the Change of Verbal Conjugation Systems in Japanese Dialects: The Prohibitive Form as Another Proof. *Acta Linguistica Lithuania* 79. 55-65. 査読有/オープンアクセス

Chitsuko Fukushima. 2018. Methods and principles of geolinguistics. *Studies in Asian Geolinguistics, Monograph Series No. 2 Proceedings of the Workshop "Geolinguistic Method and Southeast Asian Linguistics"* 10-15. オープンアクセス

Chitsuko Fukushima. 2017. Dialect Dictionaries in Japan: Comparison with Alcover's Dictionary. *Dialectologia Special Issue VII (2017)*, 73-81. 査読有/オープンアクセス

福嶋秩子. 2017. 方言分布の総合と比較から見る方言の地域差と変化. 『方言の研究 3』 053-076. 査読有(依頼原稿)

Chitsuko Fukushima. 2017. Reorganization of Verbal Conjugation System in Japanese Dialects: a Case Study in Tokunoshima Dialect. In: *VII. Congress of International Society for Dialectology and Geolinguistics: Selected Papers*. 9-18. 査読有

Chitsuko Fukushima. 2016. Sun in Asia. *Studies in Asian Geolinguistics II*. 1-2. オープンアクセス

Chitsuko Fukushima. 2016. Geographical Distribution of Quasi-Nominal Particles in Japanese Dialects. *Studies in Asian Geolinguistics: monograph Series No.1; Papers from the Third International Conference on Asian Geo-linguistics*. 127-138. オープンアクセス

〔学会発表〕(計 13 件)

福嶋秩子「言語地図の総合と比較：新潟方言の準体助詞に注目して」第 84 回新潟県方言研究会情報交換. まちなかキャンパス(長岡駅前). 平成 31 年 3 月 24 日.

Chitsuko Fukushima. Interplay of Phonological, Morphological, and Lexical Variation: Adjectives in Niigata dialects. Komatsu Round-Table Conference on Geo-linguistics. 公立小松大学. 平成 30 年 9 月 8 日. コメンテーターも務めた / 国際会議

福嶋秩子「新潟方言形容詞の分布と変化」第 83 回新潟県方言研究会情報交換. まちなかキャンパス(長岡駅前). 平成 30 年 8 月 24 日.

Chitsuko Fukushima. Towards Interlingual Dialectology: Takesi Sibata. SIDG 9. リトアニア, ビリニュス大学. 平成 30 年 7 月 27 日. Workshop の座長も務めた / 国際会議

Chitsuko Fukushima. Reconsidering the Change of Verbal Conjugation Systems in Japanese Dialects: The Prohibitive Form as Another Evidence. SIDG 9. リトアニア, ビリニュス大学. 平成 30 年 7 月 25 日. 国際会議

Chitsuko Fukushima. Variation and Change of Adjectives in Niigata Dialects. ICAG-4. インドネシア, インドネシア大学. 平成 30 年 5 月 4 日. 国際会議

福嶋秩子「新潟県における「面白い」「暑い」再訪」第 82 回新潟県方言研究会情報交換. アトリウム長岡. 平成 30 年 3 月 25 日.

Motoei Sawaki, Chitsuko Fukushima, Yumi Nakajima. Making a tagged dialect corpus using a computer: Verbal conjugation can be automated. *Methods in Dialectology XVI*. 国立国語研究所. 平成 29 年 8 月 7 日. 国際会議

Chitsuko Fukushima. Comparing integrated geographical distributions to grasp language changes. Methods in Dialectology XVI. 国立国語研究所. 平成 29 年 8 月 7 日. 国際会議

Chitsuko Fukushima. Methods and principles of geolinguistics. SEALS 27. インドネシア, パダン. 平成 29 年 5 月 11 日. 国際会議

福嶋秩子「ことばとアイデンティティ」新潟県生活文化研究会 2016 年度年次大会トピックス. 新潟県立大学. 平成 28 年 11 月 6 日.

福嶋秩子「新潟県の方言資料に見る準体助詞 その 2」第 82 回新潟県方言研究会情報交換. アトリウム長岡. 平成 28 年 8 月 28 日.

Chitsuko Fukushima. Geographical Distribution of Quasi-Nominal Particles in Japanese Dialects. ICAG-3. カンボジア, プノンペン王立大学. 平成 28 年 5 月 24 日. 国際会議

〔図書〕(計 4 件)

福嶋秩子『異なる言語地図の総合と比較 2019』新潟県立大学 科学研究費報告書(平成 31 年 3 月 20 日発行)

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版(福嶋秩子「言語地図」を項目執筆)(平成 30 年 10 月 20 日発行)

大西拓一郎編『空間と時間の中の方言』朝倉書店(福嶋秩子「準体助詞の分布と変化」分担執筆)(平成 29 年 5 月 15 日発行)

大西拓一郎編『新日本言語地図』朝倉書店(福嶋秩子「明明後日」「明明明後日」「買った」「高く」「高くない」「高くなる」「(大きい) やつ」「(大きい) やつ: 場面差」「あるのは」「いるのは」分担執筆)(平成 28 年 12 月 15 日発行)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

言語地理学のへや

<https://www.unii.ac.jp/chitsuko/inet/>

A Room for Linguistic Geography

<https://www.unii.ac.jp/chitsuko/english/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者 なし

(2) 研究協力者 なし